

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100770		
法人名	株式会社 夢・未来		
事業所名	グループホーム方木田		
所在地	福島県福島市方木田字水戸内8-15		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年3月18日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気になるよう心掛け、利用者様が自分らしく、やりたい事が叶うよう、可能な限りサポートしています。又、入所にあたり、数や大きさに限りはありますが、自宅で馴染みのあったものや、思い出の品など、積極的に声掛けし持って来て頂いています。住宅に囲まれており、交通量も多い為、季節や時間帯を考慮しながら外出の機会を設けるようにしています。(花見・紅葉狩り等)感染症が流行る時期以外は、面会の方も広く受け入れ、家族、親戚の方以外に近所の方や友人など訪ねて来られます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所近くの住宅街を流れる小川周辺の散歩コースは、地域の方とも顔なじみとなり、福祉の困りごと相談、春に庭に咲くバラの見物来所がある。また、秋祭りの山車の巡回等、馴染みの関係が構築されている。  
 2. 季節の花見、紅葉見物や外食等、利用者の体調や天候などに合わせ外出支援している。また、事業所内で、レクリエーションソフトで、誤嚥防止の口腔運動、昭和のニュース等による回想、利用者の健康維持増進、気分転換を図る取組みをしている。  
 3. 夜間時、職員が1人になるので、火災・水害の夜間想定訓練を毎月実施し、緊急通報装置ホットラインが職員及び隣接の住民3件が入り協力関係がある。ハザードマップ上は水害地区では無いが、事業所が2階にあり、運営推進委員会で非常時の垂直避難について協議し、利用者の安心・安全を守る取組みをしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に確認、共有しており常に目の届く所へ掲示している。	理念を基に、利用者が満足を得られる支援へ繋げるために、楽しく働ける、風通しの良い職場環境づくりに取り組んでいる。また、理念を毎朝の申し送り時に各自黙読し、常に意識できるようリビングへ掲示し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お誘いがあった行事には、なるべく参加させて頂くようにしている。天気の良い日はなるべく散歩に出かけ、近隣の方との交流を増やしている。	町内会へ参加し、祭りの山車や太鼓が回って来る。散歩時に地域の方と顔なじみとなり、そのご縁から福祉の困り事等の相談を受ける事もある。また、地域包括支援センターから、高齢者の健康維持のももりん体操会場の提案が有り来年度から引き受ける予定等、地域との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で発信している他、申し込みに来た方や、見学に来た方などの相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	偶数月、第三土曜日に開催している。取組みの報告の他に、家族目標のアドバイスを頂き、地域の情報(不審者や徘徊者)なども共有している。	定期的を開催し、地域の情報交換及び事業所での行事、ヒヤリハット、事故報告をしている。また、昨年台風19号時避難勧告を受け地域小学校へ避難した経験があり、事業所は2階にあるので委員から垂直避難について助言を受ける等、いただいた意見をミーティングで話し合いサービス向上に活かしている。	身体拘束検討委員会、外部評価結果等の協議議題については、分かりやすく記載し、さらなるサービス向上に活かして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を受けている利用者様がいる為、毎月情報の共有をし、困りごとがあれば担当者に相談している。	生活保護担当課からの照会により生活保護受給者を受け入れる等、担当者とは、日頃から密に連絡を取っている。また、地域包括支援センターが隣接しており連携がとりやすく常に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1度開催し、ミーティングで情報共有している。外部研修に参加し、内部研修も実施している。	身体拘束排除マニュアルを整備し、定期的に身体拘束検討委員会を開き、外部研修等の報告や身体拘束をしない取組みをしている。また、事業所は1階が玄関、2階がGHなので、見知らぬ人が、インターフォンを押さずいきなり2階へ上がり込むこともあり、利用者の安心・安全を図るため施錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受けた職員が内部研修を実施し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人制度を利用されていた利用者様が居たため、その時の情報を職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、1～2時間かけて、ご家族の要望、不安などを聞き、それに対して納得、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際や電話で日頃の様子をお伝えしている。必ずご家族の意向や希望を尋ね、利用者様の希望とすり合わせ反映している。	家族の面会時に声掛けに心がけ、利用者状況を話すと共に、意見を聞くよう努めている。また、利用者へは日頃のケアのなかでの意見や昔話へ耳を傾け、出された意見はミーティングで協議し、利用者が満足を得られるように支援に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回ミーティングを行い、職員の発言の場を設けている。	週1回30分のミーティングを開き、屈託無く意見を出してもらうようにしている。また、管理者、主任へ自由に相談できる雰囲気があり、出された意見は、社長へ相談し運営に反映させる取組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを実施している。いきいきと働けるよう職員の意見をくみ取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業者から提案した研修以外に、職員の希望する研修への参加を後押ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の行事への参加や、外部研修を通し交流を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の口から語られる情報に耳を傾け、一から関係を構築している。職員間の伝達を密にし、対応や声掛けに齟齬が無いよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みと契約の際に時間をかけ、家族の思いを聞いている。入所後も面会時にお時間を頂き、コミュニケーションを図り、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族それぞれの意見、希望を聞きお互い納得して生活をスタート出来るよう、様々な提案を提示し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は全て利用者様の手で行って頂いている。また、全ての事柄でご本人に決定して頂くよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際、タイミングがあれば介護に参加して頂いている。また、利用者様に変化があればすぐに伝えて情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブの際に自宅の周囲の様子を伺ったり、帰宅する機会がある時は、後押し支援している。また、昔から通っている美容室などにも通えるよう支援している。	昔住んでいた近所の人や、入居前に世話をしてくれた民生委員の訪問、馴染みの美容室、墓参り、法事等への出席等、家族、職員が協力し馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で達成感を味わえるような体操や、レクリエーションを行っている。1人で難しい方には職員が付き添い、利用者様同士の関りを増やすよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ行かれる方には、名刺を渡し何かあればいつでも連絡を待っていると伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様同士の会話に耳を傾け、得た情報を職員で共有し、希望などが聞けた際は叶えられるよう努めている。	日々の関わりや、利用者同士の会話にヒントを得ている。また、会話が困難な方へは、表情、仕草、声の音量などを汲み取り、ミーティングにおいて協議し本人本意に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の時点で、家族や地域の方から、詳しくお聞きし、入所後は本人の話に耳を傾け、職員間で情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の2回バイタル測定をし、体調の変化に対応している。何にでもチャレンジしてもらい、出来ない事のみサポートするよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から現状についてヒアリングしミーティングで職員と共有、話し合いをし介護計画に反映している。又、利用者様が入院したり状態が悪化したなど変化があった場合は、都度見直しを行っている。	入居前に自宅を訪問し、本人、家族の意向に基づいて、1カ月の介護計画を作成し、その後3カ月ごとにアセスメント、モニタリングを実施し、ミーティングにおいて協議し見直しを行っている。また、緊急時にはその状況に応じ見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う様子や行動など、記録を見ただけで1日の様子を把握できるような記録になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に添えるよう努めている。外出の付き添いや、家族と出かける際の準備やアドバイス、送迎など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部での行事へ積極的に参加したり、個々の利用者様が入所前に利用していた施設、設備の利用を継続して行けるよう後押ししている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、通院の送迎、付き添いを行っている。また、往診を受けており、何かの際はすぐに対応して頂いている。又、歯科往診も受けている。	入居時、本人、家族と話し合い、かかりつけ医として往診を行っている協力医療機関を希望している方が多い。他のかかりつけ医への受診は家族付き添いによる通院としているが、通院困難な場合は、職員が対応している。体調を事前にFAXで連絡し、家族へ受信結果を電話報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護を受けている。健康管理はもとより、電話での相談や緊急時にも即時対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には往診医から情報提供がなされている。相談員との情報共有を密にし早期退院に向け協議している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で、家族やご本人に重度化の指針で説明し、終末期事前確認書で意向を聞いている。往診医や訪問看護と連携し、看取りを行っている。都度、ご家族の意向を確認し、寄り添った介護が出来るよう努めている。	入居時、重度化の指針について説明し緊急時対応の同意を得、終末期に、看取りに関する指針について説明し同意を得、看取り時は、主治医等と連携して行っている。終末期・看取りについて外部研修及び内部研修で行い不安が無いように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング内で、連絡網の整備、急変時のシミュレーションなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、消防署立ち会いの下、夜間想定を含めた避難訓練を実施している。また職員だけの避難訓練も毎月実施している。火災の際は近所の方にも自動で連絡が入るようになっており、協力体制もできている。	年1回総合避難訓練と毎月火災水害避難訓練を行っている。事業所が2階にあるので、火災時の避難用テラスを整備している。また、緊急通報ホットラインは職員及び近隣3件が含まれ、水害の垂直避難について運営推進会議で話し合いをする等、地域の協力体制が構築されている。災害時の備蓄3日分の食糧、災害時用備品、工具等準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のケアをする際は、必ず居室か扉が閉まるスペースで実施している。声掛けの際も他の利用者様の耳に入らないよう注意している。	身体ケア及び排泄・更衣等は、プライバシーが確保できる居室・扉の有る場所で行い、声掛けも一人ひとりの人格の尊重を意識した支援を行っている。また、個人のファイルは、名前等が見えないよう配慮し施錠できる場所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の味付けや、おやつ選び、入浴の際の着替え選びなど、小さなことから、利用者様に選んで頂けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様から、断りがあった時など無理強いする事が無いよう努めている。居室でのみ過ごされる利用者様もあり、希望にそって支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面台での整容や、入浴時に服を選んで頂くなど支援している。希望があれば美容室への送迎をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	料理の盛り付けや、下膳、食器拭きなど手伝って頂いている。行事食は、利用者様のリクエストを聞き、希望に沿った食事を提供できるよう努めている。	盛り付け、準備、片付け等、各人が出来る事を職員と共に行っている。食材は、食品会社と契約し、会社提供のメニューを利用しているが、臨機応変に利用者にあった物へと作り変えたり、誕生日や行事時はお楽しみメニュー等好みの特別食を提供し、希望に応じ外食へ出かける等、食を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量、食事の摂取量を記録し、把握している。利用者様に合わせ、食事の形態を変えたり、食器を工夫し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が必ず付き添い、歯科医のアドバイスに沿った口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床時や就寝前、食事の前後などまめな声掛けを行い、トイレでの排尿を促している。	一人ひとりの排泄確認表にて、パターンを把握し、声を掛ける時間、間隔等、個別対応している。また、おやつは乳酸飲料、フルーツ等を提供し自然排泄に繋げるよう配慮し、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録表を用い、個々の状態を把握し、腹部を意識した体操や、マッサージを行っている。医師に相談し利用者様の状態に応じた処方もして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する曜日は決まっているが、個々の体調や希望に合わせ、柔軟に対応している。	週3回の入浴を実施し、菖蒲湯、柚子、庭のバラ等を活用し季節感を得る等、入浴を楽しめる取組みをしている。また、入浴を拒否された場合は、声掛け、入浴日、時間帯の変更等、工夫した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望者は午睡をして頂いたり、訴えに応じ居室で休めるよう支援している。また使用しなれた寝具をお持ち頂いたり、安眠に繋がるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報のファイルを準備し、常に確認できるようにしている。服薬の際は職員2人でチェックを行い誤薬防止に努めている。利用者様に変化があった際は主治医に報告し、適正に服薬して頂けるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみといった家事や、体操への参加、職員が間に入り他の利用者様との会話や触れ合いなどの支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事でドライブに出掛けたり、散歩をしながらスーパーへ買い物に出掛けるなどしている。又、家族間での外出も送迎などで支援している。	事業所近くの小川周辺の散歩、近くの店への買い物、地域の夏祭り見物、お花見、紅葉見物、自宅周辺までのドライブ、外食等、外出の機会を多くもてるよう支援している。また、家族による馴染みの美容室への同行やドライブ等の協力を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を使用し、スーパーへ買い物に出掛けた際に、ご本人が支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話や、お友達からの電話の取次ぎなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって飾りを変え、季節を把握して頂いている。利用者様の意見を聞きながら温度調節をし、快適に過ごして頂けるよう努めている。	事業所が2階にあるので明るく眺めが良い。リビングの温度、湿度、換気など職員が管理している。また、利用者の作品や季節を感じられる装飾をし居心地の良い工夫をし、利用者は歌や口腔体操等への参加、ソファで談笑しながらくつろいで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の位置を調整したり、柱を取り囲むように作られたテーブルを利用し、自由に過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご自宅から、家具や家電製品を持ち込まれたり、自宅で愛用していた寝具を使用されたりと、スペースに限りはあるが、本人と家族の希望に沿った支援をしている。	入居時に、馴染みの家具寝具装飾品を持ち込み、利用者は家族と相談し自分らしい生活空間を作っている。また、家族の宿泊を受け入れ、遠方からの面会、看取り期間等、家族の希望に応じて対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一目で何の場所か理解して頂ける張り紙をしたり、物の場所を変えて混乱されることの無いよう配慮している。		